

日時 平成27年11月10日(火)
13時30分～15時30分
会場 八戸市公民館1階講義室

<次 第>

- 1 開 会
- 2 会 議
 - (1) 八戸市文化のまちづくりビジョン(最終案)について
 - (2) 多文化都市八戸推進事業の実施状況について
 - (3) その他
- 3 閉 会

●事務局

皆様、本日はお忙しい中、また、足元の悪い中、お集まり下さいまして誠にありがとうございます。ただいまから、平成27年度 第2回多文化都市八戸推進懇談会を開催させていただきます。

なお、本日は、委員8名全員が出席することとなりますので、多文化都市八戸推進懇談会規則第5条第2項の規定により、会議が成立することをご報告申し上げます。

議事の進行は内海会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

●会長

それでは、早速ですけれども、次第に従いまして、進めさせていただきたいと思います。お手元に、次第、パブリックコメントの意見、文化のまちづくりビジョン案、事業の実施状況の資料が配布されております。まず最初に、次第の1「八戸市文化のまちづくりビジョン(最終案)」について、事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局

それでは、八戸市文化のまちづくりビジョン(最終案)について、ご説明いたします。資料が2つございまして、先日、実施しましたパブリックコメントの報告と、現時点でのビジョンの最終案となっております。

まずは、パブリックコメントの実施状況でございますが、8月27日から9月25日まで、30日間実施いたしました。その結果、2名の方から9件のご意見を頂戴しております。資料中に、意見の内容と市の考え方を整理しております。

まず、1つ目ですが、ビジョン全体に係ることで、「厳しく言えば独創性に乏しい内容である。八戸市らしさや個性をもっと謳わないと弱いのではないか。」というご意見でした。この点につきましては、これまでビジョン案の修正を重ねてきた中で、八戸市らしさを出すということを念頭に、当市の特徴や個性を明記してきておりますので、そういった点を踏まえて、「国宝3点をはじめ、八戸三

社大祭、八戸えんぶり、縄文時代の出土品などの有形・無形の文化財、博物館や埋蔵文化財センター、是川縄文館等の文化施設、多文化都市八戸の取組み、市民による多種多様な文化芸術活動、アートのまちづくり、八戸ポータルミュージアム「はっち」といった、当市の個性が最大限に発揮されるよう、当ビジョンに基づき、文化芸術の力を活かしたまちづくりを進めて参ります。」という説明にしております。

次に2つ目ですが、これは「ビジョン策定の趣旨」についてのご意見でございます。「なぜ八戸でなければならないのか、をもっと強く出す。」ということと、「文章が長いのではないか。短く、誰にでも伝わりやすいものを。」ということでございます。前段の部分につきましては、先程と同じように、「当市の個性が最大限に発揮されるよう、当ビジョンに基づき、文化芸術の力を活かしたまちづくりを進めて参ります。」という説明としております。後段につきましては、分かりやすさを第一にしながらも、同時に丁寧な説明が必要と考えており、このような長さとなっているという説明としております。

次のページに参りまして、3つ目でございます。こちらのご意見は、ビジョンの6ページ、基本方針1の2の「あらゆる人が文化芸術に触れることのできる仕組みづくり」の箇所についてでございます。文章が配慮に欠けているのではないかとのご指摘で、例えとして、誰もが文化芸術に広く親しみ、参加・創造することができるように、アウトリーチなどを進めていきますという例を挙げておりますが、その例えが偏っているのではないかとございます。ご意見を出された方も、『「など」と記されてはいますが』とおっしゃられているので、ご理解はいただいているようですが、物理的に施設に足を運ぶことができないというだけではなくて、経済的な事情等によって、施設に足を運べない、参加できないということもあるのではないかと、というご意見でございます。市の考えとしましては、基本方針1の2では、一例として、文化施設に足を運ぶことが難しい方々のもとへ出向いた上での、鑑賞機会や体験型のプログラムの提供を挙げておりますが、「個人を取り巻く社会的状況に関わらず、誰もが文化芸術に広く親しみ、参加・創造することができる仕組みを整えて参ります」ということを後段で述べておりますので、その点を説明しております。加えて、障がい者サービスとして、文化施設を含めた市内公共施設の利用料・入場料を、障害者手帳の提示により割引する制度を設けておりますので、そちらも説明しております。

次の4つ目ですが、こちらも基本方針1の2に対するご意見でございます。ここでおっしゃられているのは、聞こえにくくなった人にもっと配慮してほしいということです。例えば、DVDに字幕を付ける等の対応をしていただくと、もっと参加できるのではないかとのご意見です。こちらは、基本方針1の2で、包括的に述べておりますが、個人を取り巻く様々な状況を踏まえ、あらゆる障壁を取り除くことができるよう、誰もが文化芸術に広く親しみ、参加・創造することができる仕組みづくりを進めていく中で配慮いたします、としております。

次のページに参りまして、5つ目のご意見ですが、こちらも基本方針1の2についてでございます。「あらゆる人が文化芸術に触れることのできる仕組みというのは、決して動けない人だけの問題ではない。動けない人でも他の都市では外に出ているので、八戸市で少ないという背景には何か他の理由があるのではないか。」というご意見で、一例としてホームページのURLを付けていただいておりますが、例えば静岡市のお祭では、ノーマライゼーションブースが設置されており、手話通訳のブースもある、そういった環境が整備されると、誰もが出向いていけるのではないかとのご意見でございます。こちらにつきましては、あらゆる障壁を取り除くことができるように、これから進めていく仕組みづくりの中で検討していくという説明としております。

次の6つ目は、8ページ、9ページの発信と取り組み方についてのご意見でございます。IT分野の環境整備をもっと進めると、インターネットを通じて誰もがアクセスできるのではないかと、また、全国と言わず、世界に八戸の魅力を発信するべきというご意見でございます。こちらにつきましては、「国内のみならず、世界中の人が情報を知ることができ、また国内、海外に発信することができるよう、ホームページやSNS等の媒体を活用した環境整備に努めて参ります」という説明としております。

最後のページですが、7つ目として、「3 基本方針」、「4 四つの視点」、「5 まとめ」についてのご意見で、内容としましては、どこの都市でも言っている内容が同じなのではないか、八戸市独自のものが感じられない、これから進めていく際に、若い方々を含めたメンバーで市民と一体型の委員会を組織して進めていってほしいというご意見でございました。パブリックコメントで提示しているビジョンの案には、「四つの視点」や「まとめ」といったものはなく、おそらく、どこかでその前の26年12月時点のビジョン案をご覧になったのではないかと思います。市の考え方としましては、平成26年12月11日に開催した多文化都市八戸推進懇談会に提示したビジョン案をご覧いただいたものと思いますが、その後、各方面からいただいたご意見を基に、当市の独自性を表現できるように修正しており、また、策定後の推進体制につきましては、多くの市民の皆様のご意見を反映することができるものとなるよう、検討していくという説明としております。

8つ目と9つ目は、その他ということで整理しておりますが、8つ目では、他の都市で既にビジョンが作られている中で、後発の八戸市が独自性を誇れるようなビジョンを持つためには、ノーマライゼーションとIT分野の部分がヒントではないかというご意見でございます。繰返しになりますが、あらゆる人が文化芸術に触れることのできる仕組みづくりに尽力しながら、文化芸術の持つ力を活用した、魅力あるまちづくりを進めて参ります、という説明としております。

最後に9つ目ですが、〇〇のまちといういくつかの名称を聞くが、市の姿勢を統一して欲しい、直接関わっている方以外はよく分からず混乱してしまう、というご意見でございます。こちらにつきましては、八戸市では、色々な分野で「〇〇のまち」を標榜し、施策を展開しておりますが、これは、多様な取組みを通じて、多角的にまちの活性化を図りたいとの考えによるものという説明としております。

以上が、パブリックコメントのご意見と市の考え方を整理したものでございます。

●会長

ありがとうございました。ただいま、事務局からパブコメにつきまして、市の考え方の説明がございました。ただいまの説明について、質問・ご意見等ございますでしょうか。

●●委員

3番なんですけれども、入場料の割引制度とあります。東京の公共の各美術館、博物館は、すべて無料です。それと、付き添い、介添えの方も無料となっております。八戸の場合は、確か半額ですよ。そこを一步進んで、東京並みにして、無料、付き添いの車椅子を押してきた人の分も無料にするという形に進んだ方が、もっと入りやすいのではないかと思います。民間の場合は、半額まではいかないけれど、3割くらい安くなっています。それも考慮していただければと思います。

●会長

これは財政との協議もあるでしょうし、不確定な要素もありますよね。どのくらい年間入場者数があるのかというのを見て予算立てしてということになると思いますが。ただ、半額と全額では全然違うから、これはポリシーの問題もありますよね。

●●委員

東京は全額無料です。付き添いの方も無料です。

●会長

ご意見として頂戴します。その他、何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

個人的には、前のビジョン案を見てご意見をいただいた方には誤解されているのかなという感じもあって、そこは払拭してほしいと思うんですが、パブコメ向けに提示したものではない案を見て出された意見に対応するのは難しいという気持ちもありながら、しかしパブリックコメントとしてご意見を頂戴したからには、やはりこうやって回答するというのもやむを得ないのかなというところですよ。

次に、ビジョンの最終版について、ご意見をお伺いしたいのですが、概略はよろしいですよ。事務局から資料の説明をお願いします。

●事務局

文化のまちづくりビジョンの最終案について、簡単にご説明いたします。

前回の7月の懇談会以降、委員の皆様や庁内のワーキングメンバーからご意見を頂戴し、出された意見を基に、字句や表現の整理を行い、修正を図っております。修正箇所をまとめたものが、お配りしている資料でございます。内容としましては、表現の整理でありまして、述べていることが変わっているところはございません。

●会長

ありがとうございます。字句の整理や表現の整理といった修正箇所が一覧のとおりで、これらが最終案に反映されているということです。いかがでしょうか。

●●委員にお伺いしたいのですが、ビジョン策定の趣旨のところの二段落目で、今まで何とも思わなかったんですけど、『八戸市は、平成23年に発生した東日本大震災の被災地であり、「より強く、より元気に、より美しく」をスローガンとした創造的復興に取り組んでいます。一方、定住自立圏を形成している周辺の市町村の中核都市としての役割を担っており、当地域からの人口流出の抑制や新たな移住を呼び込むことも重要な課題となっています。』とあります。この「一方」というのが気になっておりまして、その後に「役割を」とあるのも「役割も」ではないかと思ったんです。両方とも課題であると言っていて、創造的復興に取り組んでいる最中であって、一方で、定住自立圏の中核都市の役割もあってそちらも重要な課題であると。つまり、「一方」というのは別の話に展開する際の言葉であって、課題を二つ抱えているという風に捉えると、「また」とかそういう言葉になるのかと思うんです。ただ、ここで「また」を使うと、その後に「また」があるので、分かりにくくなるんですよ。「一方」と言うと相対立するような、華々しく栄えているけれど実は課題があるんですよ、という使い方なら良いのですけれど。

●●委員

二段落目の二行目を「また」として、その後の「また」は「そして」に置き換えるとなつがるのではないのでしょうか。

●●委員

「住みたくなる、また、住んで良かったと思えるまち」のところは、「また」を削っても良いのではないですか。

●事務局

この場で結論を出すのも難しいかと思いますが、文案を作っていく中でも、担当者とそれぞれの部分を見て言葉を直していくと、後で全体の構成を見たときにバランスが悪いということもありましたので、ただいま出たご意見を参考にしながら、どういう接続詞が良いのかを考えたいと思います。

●会長

ただ、先程の「住みたくなる、また、住んで良かったと思えるまち」のところの「また」は要らないのではないか、その前の「一方」というのは、やはり相対立するような意味なので、本当にそういう文になっているかどうか、もう一度、そういったところを見直していただきたいと思います。

あと、その他のところは、パブリックコメントで意見があった事項と照らして見てみたんですが、これを活字として表に出しても、特段、問題はないかと思っております。

皆様の方で他に何か気になった点がありましたら、また出していただきたいと思います。

パブリックコメントの回答はいつ頃公表するんですか。

●事務局

内容を決定しましたら、直ちに公表いたします。

●会長

早い方が良いのですよね。この内容で良いと思いますが、半額が全額になってくると、障がい者に対する配慮の仕方や文化に対する考え方が、また全然違ってきますよね。

●●委員

ノーマライゼーションと言っている訳ですから、そこも一步踏み出さなければ、言っている意味が弱くなってしまう気がします。

●会長

そうすると、次はどこまでのエリアを全額にするかという議論も出てきますよね。いずれにしても、そういったご意見を頂戴して検討していくことは大事だと思います。あとはよろしいでしょうか。

それでは、次第の2番目「多文化都市八戸推進事業の実施状況について」、事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局

それでは、多文化都市八戸推進事業の実施状況について説明いたします。

前回の懇談会の際に、補助金等の概要について説明しましたが、その後、皆様から審査をしていただいた補助金の実績報告等もありましたので、全体の実施状況を説明いたします。

今年度の多文化都市推進事業補助金は7月に募集を終了し、審査を受けた3事業が全て補助対象として決定されました。

1つ目の「クリエイティブドラマで遊ぼう」という事業が、9月12日に南郷文化ホールで実施されておりまして、実績報告がありました。内容はご存知かと思いますが、クリエイティブドラマとは、台本のある通常の演劇ではなくて、その場その場での「ごっこ遊び」を発展させたものと言いますか、表現する楽しみを体験するというを通して、子どもであれば感受性を養い、大人であれば刺激を受けて創造性を養うという企画になっております。日本ではあまりポピュラーではないんですけれども、一部の大学で実施しているところもありまして、こども教育宝仙大学でクリエイティブドラマの講義を持っている上村宏樹先生を講師としてお招きして実施されました。20名の募集人員に対し、参加者数は21名で、募集した以上の人数が集まりました。基本的には親子での参加でしたが、下は7歳から上は70代まで幅広い年代の方々が参加されました。実績報告の中で、「普段の何気ない会話の中に、他者をコントロールする言葉、否定する言葉があることに気付かされ、それらを最初に講師に取り除いてもらって、参加者は生き生きと笑顔で参加することができた」とのコメントがありました。参加者からの反応もとても良く、今後も継続していきたいとおっしゃっていて、2回目の実施も既に計画されており、同じ講師の先生に打診中のことでもあります。最後に、事業実施者の感想として、学校の先生のような子どもを指導する立場の方々に参加していただきたい内容であったとのことでもあります。

「インシデンツ2016」と「苦難を歓喜に変える心は科学だ」につきましては、実施予定日が1月と3月で、今後実施されることになっております。日程や会場など、申請時の内容から変更はないとのことですので。

次に、「多文化都市八戸推進ワークショップ開催支援事業」についてですが、例年1件から2件が実施されておりまして、今年度、既に実績報告のあった1件についてご紹介いたします。こちらの事業につきましては、予算などがある訳ではなく、施設使用料が全額減免になるという支援となっております。

こちらは、泉彩奈日本舞踊稽古所主催による「日本の音を奏でてみよう。日本の音を踊ってみよう。伝統文化ワークショップ」ということで、5月24日に八戸ポータルミュージアムを会場として開催されました。事業内容としましては三味線、小鼓や日本舞踊など普段触れることの少ない日本の伝統文化を体験し、表現する楽しみを親子で体験してもらおうというもので、親子での参加を基本に募集しておりました。15名募集したうちの参加者数は11名となっておりますが、当日は市内の学校のイベントと重なったということもあり、若干、人数が少なくなっております。実績報告の内容としましては、主催者の狙いどおり、和楽器や日本舞踊について体験する機会がなかったが、実際に体験してもらい、楽しさや難しさを感じてもらえたことのできたこととあります。アンケートでは、参加者全員から次回も参加したいという回答が寄せられており、当日、通りかかった方からも「次回の開催はいつか」という問合せをいただいたことと、そういった点でも反応は良かったこととあります。

次に、文化団体等出演補助金ですが、全国大会に出場する方々に対する補助となっております。補助額は大会の規模や国民文化祭等によって5,000円から10,000円と異なります。こういった大会は秋に集中しており、現在、交付申請中のものが多いのですが、一覧に記載しているものは

既に終了しており、現在、交付手続中となっております。

次の演奏会補助金ですが、例年、こちらの八戸市民フィルハーモニー交響楽団と八戸ウインドアンサンブル、八戸ジュニアオーケストラの3団体には活用していただいております。他の楽団にも案内を送っており、現在、まだ予算残もありますので、現在も募集中でございます。

次の文化協会補助金につきましては、交付手続き等は終了しており、年度末に報告書をいただいて精算するということになっております。

次の八戸小唄まつり事業補助金につきましては、さめ浜まつり事業と湊橋八戸小唄まつり事業に用途が限定されている補助金となっておりますが、予定通り実施され、補助金の交付手続きが終了しております。

補助金等の報告については以上でございます。

●会長

はい、ありがとうございました。ただいまの説明について、何かご質問等ございますか。

●●委員

インシデント2015ですが、会場が八戸酒造さん、これは問題ありません。新むつ旅館の方はどうなっているかわかりませんが、もう一つ、会場に大祐神社とあります。これに関して、大祐神社には一切連絡がありません。以前、審査結果にも、場所の確約を取った方が良いのではないかと書きましたけども、確定後も、今日も宮司に話を聞きましたが、連絡は一切来ていないと伺っております。神社の場合は、やって良いこととやってはいけないことという縛りがあるものですから、こういったものは早目に連絡しなければいけないので、おそらくこれはできないのではないかなと思います。これからまたこういう申請があった場合は、完全にここを借りるというのを決めた状態で会場名を入れてもらうようにしていただかないと、神社としては名前だけ出て迷惑を被りますので、よろしく願いいたします。

●会長

他の会場は良いかもしれないが、ここの神社は難しいかもしれないということですね。

●●委員

大体1か月近くありまして、ここの神社で使うとすれば直会殿というところなのだろうと思うのですが、西有穆山の大事な書とかもあり、そういうものを悪戯されても困りますので、神社でも直会殿は鍵を掛けたりしています。そういう管轄もあって、もしやるのであれば、そこに完全に人がいなければならないということと、宮司にいつ使うのでよろしく願いしますという内諾を取らなければ、失礼というものです。

●会長

次年度以降、申請書に、「他の施設等を使用する場合は事前に交渉しておくこと」というのを入れておけば良いですね。知らないうちに施設の名前を出されても迷惑だということもありますよね。

●●委員

確かに現代美術なので、うちもここで現代舞踊とかもやったりして、そういう色んなことはできるんですけども、やるためにも神社ではここまでやって良い、これ以上やってはいけないという縛りがあり、それを分かった上でお願いしなければいけないので、よろしく願いいたします。

●会長

白銀公民館が震災の避難所になるときも、神社については向こうまで問合せをして、市が了解を取るとい話も聞いたことがありますね。

その他いかがでしょう。まだ、終了していないものもあるようです。ワークショップでは自分達でアンケートをちゃんと取っているというのは良いですよ。自分達が支援を受けて実施するものを、アンケートを取って評価を受ける、アウトカム評価をきちんとやっているというのは、以後参考になりますね。私達が行った評価が正しかった、間違っていたというのも分かりますね。無理のないところでお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。来年は、文化協会はこれくらいの予算が付くのでしょうか。シーリングとしては少しずつ下がっていくのが常ですが、どこの市町村でも聞くんですけど、青森市では10パーセントくらい全体で下がっているようです。

●●委員

今のところは十分な額をいただいております。ワークショップの開催支援事業ですが、日本の伝統ワークショップの中で、日本舞踊の体験と、三味線、小鼓などやっていたけれども、文化協会には長唄の初音会という組織が新たに加入したんですよ。よく言われているんですけど、はっち3階の和室を使って、少なくとも月1回くらい、定期的にやればもっと良いというのはこれにも表れているんだけど、1回演奏して終わるものだから「次はいつですか」というのを結構聞かれる。ですから、そういうものはっちの方でも考えていただければと。要望が出ているのをお伝えしておきたい。よろしく願いします。

●会長

琴のサークルはあるんですか。

●●委員

二社中あります。

●会長

そういうところと一緒にやると良いですよ。

●●委員

コラボレーションという形で様々やっています。

●会長

高校総体でも和楽器の演奏が注目を浴びてきていますよね。

その他いかがでしょうか。特になければ、来年度以降、申請をいただく際には、使用予定の施設か

ら内諾を得るということをお願いしたいと思います。

それでは、その他、事務局から何かありましたらお願いします。

●事務局

それでは、二点ほどご説明いたします。

まず、先程の文化のまちづくりビジョンの修正の件でございますが、事務局で修正案を作りまして、来週末くらいまでに修正したものを委員の皆様にお送りして、そちらでご意見がなければ最終案という方向に進めさせていただければなと思います。

二点目なんですけれども、お手元の「新美術館整備について」という資料をご覧いただきたいんですけれども、こちらについてご説明いたします。

ご存知のとおり、八戸市美術館、昭和44、45年に建設されて以来、築40年以上経ちます。美術館としては県内初なんですけれども、昭和61年に開館して以来、今日までに至るんですけれども、そこでは企画展、常設展のほか、市民団体ですとか文化芸術の活動の場として活用されてきておるんですけれども、建物が外から見ても中から見ても40年以上経っているというのは否定できないこととございまして、それもありまして、実は今年の2月に市民の方から要望をいただいております。その要望については資料に添付しておりますが、24万都市八戸市にふさわしい新美術館の建設要望について、こちらの書面を市長宛と市議会議長宛に提出されまして、今年の3月議会において、この陳情書が採択されたところでございます。合わせて市議会でも6月に2人の議員から一般質問を頂戴しておりまして、質問内容、答弁については資料を添付しているんですが、簡単に申し上げますと、市としては建設の可能性について庁内で検討したいということで、現在、検討作業を進めているところではあるんですけれども、折角、本日、委員の皆様にお集まりいただいているので、今の美術館についてのご意見ですとか、ここがこうあればいいだとか、こういう風なことをやって使い勝手がいい、悪いだとか、あとは他都市にあります美術館の現状とかご覧いただいていると思いますので、その辺のご意見をざっくばらんにこの場をお借りして伺えればなと思っておりますので、何かございましたらご発言いただければと思います。

●会長

どうもありがとうございます。事前に委員の皆様には「新美術館の整備について」という資料が送付されていたかと思えます。新聞に出たのは去年くらいでしたっけ。

●事務局

3月にこの陳情書が出されました。

●会長

色んな意味で多文化推進の一つの拠点になることは間違いないのですが、何しろハコモノの整備ですから、作れば良いという問題ではなくて、作った後の維持も含めて、作るのは建設会社なんですけれども、お金を出すのが問題で、様々なことを考えなければならないので、相対的に経済が落ち込んでいるときに、こういうものを作っていくためには、市民を巻き込んで合意というものをいかに作っていかれるかということが重要になってくると思います。24万都市に相応しいと言われれば。

話は変わるんですが、個人で持っている美術館というのはいくつかあるんですか。画廊とか、作家

さんが個人でやっているとか。

(各委員から発言あり)

八戸クリニックまちかどミュージアム

洗心美術館

小さな美術館ミモザ

帆風美術館

ツカハラミュージアム

●会長

色々あるんですね。いかがですか。まずは忌憚のないご意見を伺えればと思うんですが。

●●委員

2月に要望書が出て、議会で採択されたんですけど、いずれにしても8年先なのか9年先なのか分からないのですが、作るにしても24万都市にしてはちょっと時代が変わってきてます。よく言われる近代美術、十和田の現代美術館には後れをとっています。これから検討していくと。ただ、問題は、今あるものをあと何年くらい使わなければならないのか。駐車場の問題とか、あとは文化協会の会員でも美術館を借りて体験講座とかをやるときに、材料費を少し取りたいという美術館ではできないとか。どういう形のものを作れば理想なのか。会長の言うとおりに、建設費は相当かかるんでしょうから。どういう青写真を描くのか。

●●委員

基本的に、国立新美術館みたいに特定のものを置かないというコンセプトで作るのか、八戸で美術館を作るとしても、これが目玉ですという作品が無い訳ですから、それを改めて買うとなったらそれだけで何億という形になっちゃいます。その辺をどういう形でいくのか、それを決めていかないことにはハコも作れない訳ですよ。

●会長

県でも作る時には、こうだっというものを決めるのに、鷹山さん相当苦労されてましたからね。総額とするとどの位の規模を想定されているんですか。24万都市に相応しい美術館というだけで、何億とも何十億とも出ていない訳ですが、まだないんですか。

●事務局

そこも含めて建設の可能性を整理するという事です。

●会長

要するに、国立競技場も千数百億から三千億と倍くらいになるから、ある程度の枠があるかどうか。

●事務局

当然、市の財政力からすれば、やるとなったときには、そこを第一に考えて、きちんと押えていか

なければならぬところだ。

●会長

一度流れていますから、二度夢を見させて流すと市民は失望してしまうよね。今度は本当に、やるとなったら本気でやっていかないと。

●事務局

今日も文化に詳しい方々にお集まりいただいているので、24万都市八戸に相応しい新美術館の要望が出されて採択されているんですけども、人によって色んなお考えがあると思います。まずは色んな場を通して、色んな声を聞いていかなければならないということもあります。例えば、24万都市に相応しい新美術館と一口に言っても、それぞれ思うところがあると思うんですね。100億位掛けて立派なのを建ててほしいと思う人もいれば、そうではなくて、もっと市民に開かれたものというか、収蔵品がないとすれば別の形のものとか、そういう具体的なもので、それぞれの方がイメージしているものを一つでも二つでもお聞かせいただければ、今後色々進めていくに当たっての参考にさせていただきたいと思います。ソフトもハードも、今はまだ自由に考えられる状態ですので、具体的にどういふものか、みんなが作品を飾ることができる美術館がほしいのか、お金を出してでもこれという作品を揃えた美術館にしてほしいのか、十和田の現代美術館のように現代アートの作品がほしいのか、そういうことも含めて、皆さんが考えられていることを自由にお聞かせいただければと思っています。

●●委員

それも難しいですね。東京だったら、国立近代美術館、現代美術館、個人的に好きなのは本郷にある弥生美術館、竹久夢二があるあいう小さな美術館というのも趣がある。これは我々だけではなく、多くの方々、全ての市民に、どういふものが良いかというアンケートを取るといふこともまず率先してやらなければいけないのではないかなと思います。サントリー美術館だったら日本の古風なものを置く、森美術館だったらアートの、映像を重視したものを置く、そういった特化したものにしていくのか、何でもできるものにしてしまうと何もできない美術館になってしまいます。だから、基本路線を決めてしまわなければ何もできないと思います。展示に関してですけども、東京都美術館は常設の他に書展とか絵画展をできるスペースが別にあるので、結構広くあります。そういう展示用のスペースを別に作ってあげるといふのも、ないよりはあった方が良くと思います。

●会長

生涯学習推進法によって社会教育法が変わってから、この類は規制緩和が随分出ているものだから、ファッションショーでも音楽会でも何をして構わないということになっています。そういう意味では、運営する側を含めてコンセプトが豊富にないと、昔のように〇〇の館という風にしてやっていくと遅れていきますよね。十和田市現代美術館は顔になっていますよ。駅じゃないから、十和田市はある意味、官庁街しかないという部分もあるから、顔になるように現代美術館とか運動公園も真ん中にあるしね。八戸の場合は、こういう議論をする場合には、はっちのときもそうでしたが、はっちは補助金が交付されるうちに建てますというような話で、少々北京オリンピックがあって資材の高騰があっても、設計をし直して地下ができない、屋上ができないとなっても、無理して作ったところが

ありますよね、作らないとできないから。今度も建てるという前提で意見を聞かないと、作るか作らないかも含めて話し合いをといても、あまり生産的な議論の材料にはならないのではないかなと思うんですよね。そうではなくて、作るという前提に立って、やっぱりこれは難しいなという判断が出てやめるのであれば、それはそれで良いのだけれど、特にこういうものは、ニーズからすると、これがなければ生きていけないというものでも何でもないで、特に美術館、博物館、公民館、社会教育関連施設とかは一番難しい。道路作ってくれとか橋作ってくれとか病院作ってくれとかいうのと全然違うので、ニーズについては市民の意見とか、色んなものを伺って、作りたいんだということで話を進めていかないと良い意見は集約できないのではないかなと。一度そっちの方向に行けば、トラブルやハプニングがあっても、色濃いアイデアが残るというものではないかなと。心の豊かさという点では欲しいところですけどね。フィールドミュージアムの中で良い拠点ができるということで。新しい美術館ができればまちが変わるんじゃないですか。

●●委員

芸術パークのときは、週1回くらい集まりましたもんね。模型もできて、音楽ホール、演劇だけじゃないホール、練習場。本当に大事なものは、市民がデートを含めていっぱい集まるような場所。本八戸駅から市民病院跡まで地下鉄を通そうという話が出て立ち消えになった訳ですよ。そこにもしのできるのであれば、あつちは芸術パークだったけれど、こっちは美術館を中心として、はっちと色々と連携させて市内の人々が集まる夢のあるものにしてほしいですね。

●●委員

一つの提案としては、商工会館や青森銀行を含めて作るというのもあるんですが、坪数からいけば、陳情のときの文書からすると大した広さではないんですね。駐車場なども含めて考えれば、地下駐車場を整備するなら別ですが、いずれにしても美術館をこのままにしてはおけないと思いますから、各界の人や市民を含めて、作るような方針でどうですかという投げかけをしないとできないと思いますよ。

●会長

今の美術館の耐用年数はあと何年くらいなんですか。

●事務局

耐用年数はまだあります。一部、耐震補強をしなければならないという事情も抱えております。

●会長

何しろ駐車場も含めて、スペースの問題がありますよね。今はインテリジェントスクール構想とあって、公民館とかを入れて学校を作るといった構想もあって、施設は24時間稼動するようなものを作るべきだ、一部の時間だけ使うのでは勿体ないと、そういうインテリジェントスクールといった形で建て替えましょうというような話が結構多いんですよ。これは20年以上前からあって、そうすると高齢者もそこに入って来れるし、厨房が一つあれば皆が使えるとか、滑川市なんかはそうですね。大英博物館だって博物館と図書館が一緒になっているし、要は考え方ですよ。どうせ小さくなるんだから、最初は大きく言っても、段々現実が分かってくるんじゃないですかね。老朽化しているし、

必要だと思わせるように議会を説得して、市民を巻き込んで進めていったら、今はネットでも寄附を集められるじゃないですか。案外、寄附を集められるのではないですかね、あなたの名前を載せますからというようなやり方でね。問題は、20年、30年と長く回していけるように、どうしていくかということですよ。そうするとコンセプトも、展示のメインをどうするのかとか、今はネットワーク構想だから、他とどう連携していくかということも出てくるし。いずれにしても、こういう話が出てくるということはゆとりがあるということですよ。ゆとりがないときはこういう話はないですから。

●●委員

商工会議所の先月の議員総会で、商工会館の建直しをどうするかという話があって、前から話が出ているんですが、今年度の予算で商工会館がどのくらいもつかの議論をしています。かなり古いので、これ以上投資する意味があるかどうかという意見が出て、周辺の青森銀行さんも関係してくるんですが、隣の消防の跡地に移転するなり、そういう議論も役所とももちろん話をしていでしょうし、商工会議所とも話をしていでしょうし、全部の建物が古いんですよ。ですから、もしあの場所で行うのであれば、3つが一緒にどうするかという議論をしない限りは、単独では皆できない話だと思うんですね。場所がある程度確定して、次は、青森銀行と商工会議所が、民間と一緒にすると可能かもしれないんですけど、駐車場の問題が当然出てきて、まちづくり会社みたいな、市と商工会議所がお金を出し合って作った会社が、今はグランドホテルの前にマンションのようなものを建ててますよね、あれと同じように、松山なんかはまちづくり会社が中心街に駐車場を作ってやったりもしているので、そういうところが今、話をしている最中だと思いますが、もう少し具体的にならないと、あの場所ではないのであれば、違う場所では無理だと思うし。

●会長

そういうのを進めるのは、昔はディベロッパーがあったんですけど、コミュニティディベロッパー的にね、僕の田舎で、皆が土地を3分の1ずつ供出してビルを建てて、その収益でまちを整備する、国からは補助金をもらう、そういうコンパクトシティの発想でやっている事例もある。今おっしゃるように、震災で商工会館もあれを潰していく訳にはいかなかったんで、確かにバラバラよりは一緒にやった方が、それを束ねるような発想でやっていかないと、まちづくりですからね。

●●委員

補助金を使おうとすると用途に制限が出てくるじゃないですか。きっと、行政側と民間と、私が分からないような部分があるので、補助金を使って行政側が何か建てるとすると、その中に入れていいもの、入れてはいけないもの、はっちのときも色々ありましたよね。図書館の話だとか、色々あったと思うので、何の補助金を使ってやるのかによって入れられるものが限られてくる。

●会長

京都の亀岡市は、7つ位の補助金を取って、50メートルの廊下を作って、道の駅があって、結婚式場があって、介護施設があって、お風呂があって、子ども用の図書館があって、生涯学習関連施設があって、玄関を別々にして、凄いですよ。年間回すのが十何億で済むんですけど、大阪でやると維持管理に100億超えるっていうんですよ。それは有名になっていますよね。今でもイベントとか

をやっているんですけど、町にはそれしかないでしょ、あとは京都学園大学と役所しかない。そのエリアは凄くて、本当にやるんだったら点と点じゃなくて、役所があって広場があって、公共施設を周辺に置いて、そうするとバスの便ももう少し良く、インナーリング構想とかよく言うんですけど、中へ車を入れないような。まちづくり会社で駐車場をやって。そうすると、はっちは良い場所に建てたあと後から感じるんでしょうね。

●●委員

十和田の美術館や青森の県立美術館は敷地が広いし、緑があるので、中がそんなに大きくなくても外で色々過ごせますよね。今、例えばこの角地の場所では、それ位の余裕もないし、必然的にできるものが限られてくるんじゃないかな。先週末、金沢の21世紀美術館に行ったんですけど、あまりに人が多くて美術館を全然ゆっくり見れない、ゆっくり見ようとしても早く行ってくださいという感じになるので、それでは行った意味がない。結局、外でブラブラしていたんですけど、ああいう風になっても意味がないと思うし、本来の美術館の目的から完全に外れちゃって、ただただ人を入れているというのは、本来の姿ではないなと思いました。

●会長

いずれにしても、ロケーションについて、角地の青森銀行を巻き込んでやらない限りは、そんなに大きくならないですよ。

●●委員

それでも大した大きさではないんですよ。

●会長

あとは地下ですよ。

●●委員

消防署の跡地からずっと敷地を取っても、坪数からいったらそれ程大きくはないでしょう。

●事務局

不成型なんですけど、大体、市の土地が面積で6,700㎡ほどです。

●●委員

大体7反部くらいだから2,100坪くらいでしょう。だから坪数にしたらこんなものかなと。自ずと駐車場は地下へ行かないと。美術館の利用状況を見ると、ほとんど借りている人でしょう。イベントと言ったって大したものではないし。その辺から行くと、やはり行政と一体になってやらないと、単独でやると規制が出てくるからね。本当はそこまで行ってもらえれば良いと思うんですけどね。

●会長

青森市の駅前の買い物公園のように、道路も全部公園だといって、そこも一つのエリアと考えてやっている。ここは一方通行が多いからね、それをどうするか。商店街はそんなに搬入したりする必要

はないので、あとは道路の維持管理を国交省を含めて警察と協議して、市民が通る道だとかそんなのも含めて公園化していくとか、作るとなると、多分、二弾、三弾と、役所はそういう知恵がいっぱいあると思うから、一番いい方法をみんなで話し合っただけで進める必要が出てくる。

●●委員

三菱美術館はそんなに大きいというほどではないですけど、都心の、東京駅の目の前にあるものですから、十分に楽しめるスペースですので、そんなに大きさを追わなくても良いのではないかなと思います。

●会長

やっぱり芸術パーク構想が良すぎましたね。当時も見ていましたけど、期待をかけさせられ過ぎたと言うか、あれはPFI方式でしたっけ。

●事務局

手法まで詳細に決めたものではなかったと思いますが、この場でははっきり分かりません。

●会長

未だにトラウマのように引きずっている方もいらっしゃるんじゃないですか、当時関わった方の中には。

●●委員

今朝もある人と話をしている中で、「あのときは芸術パークを能楽に使って」とか、昔描いた夢の話をしたんですが、今は駐車場に使われているんですけどものね。いずれにしても、今まで出たような話を積み重ねていけるのであれば、良い物を期待したいですね。まあ、このままだと10年、20年が良いのかどうか。会場を借りるのにも、今までだと2階、3階を展示用に借りたくても借りられないような状況なんですよ。ワンフロアずつ分けたりして、美術館も貸し出すのに抽選したり、色々苦労しているのが実態ですよ。

●会長

ICANOFはいかがですか。美術館を使うのに。

●●委員

使いやすいと思って使わせていただいております。自由に使えますから。街中にあるし。

●会長

やっぱり街中にあるというのは良いですか。

●●委員

街中が良いのではないかと思いますけど。私達は写真展のことしか分かりませんが、例えば、遠くに離れたところでやった場合には、興味のある人しか行かない。展示しているものに興味のある人

しか行かないということではなく、一般の人に少し興味を持ってもらいたいと思うと、やはり街中のようにアクセスの良い、便利なところ、誰もが来やすいところが良いような気がしますね。

●会長

県立美術館も、見てからコーヒーを飲みたいと思っても、時間が限られているものですから。あんな外れにあるものなので、もう少しこちらのことも考えてほしいと思うんですけど。我が家からは近いので何とも言えないけど。

●●委員

盛岡の美術館は駅が近くて良いですね。

●●委員

だからやはり、あまり肩肘張らないで、市民のための美術館ということで、アレコのような、あんなの大作はいらないから。

●会長

ただ、あの界限の全ての建物がそろそろ老朽化して、考える時期だとしたら、みんなが勝手に建て替えを始めたら大変なことになる訳でしょう。だから、そこはみんな連携・協力してもらって、進めていけると良いですね。

●●委員

私の感覚だと、屋内スケート場が出来てから取り掛かるのかなという意識があるんですけど。

●●委員

市長は中心街活性化の関係で、あの辺が良いとおっしゃっているから、商工会議所とか銀行と一体的に進められれば、そんなに大きくなくても良いので。

●会長

一体化すれば、駐車場とか、今後の維持等々、色んな規制を潜り抜けるアイディアというのはニッチな隙間で何かあるはずですよ。それが八戸らしさにつながるんですよ。ただ、やっぱり一番心配なのは、バラバラに自分達の建物を新築したり増改築したりし始めると大変ですね。そうなるともう手が付けられないですね。そこはコミュニケーション、意思の疎通を上手く図りながら、タイミングもあるんじゃないでしょうかね。

●事務局

そうですね。先程、銀行ですとか商工会館ですとか、同時期に建てられた建物であるという情報もいただきました。我々が勝手に進められない部分もあるので、その辺は慎重に情報収集に努めて、周辺にも目配せしながら、基本構想を作ればと思っております。ありがとうございました。

●●委員

建物を全部壊した図面を作ると、どの建物がどこに移動すれば綺麗になるかというのは見えると思うんですけど。

●会長

私の田舎は4つのブロックに分けて、ここを潰して、こっちのものがここに来て、という順番で今まで来たんですよ。一番のメインが農協会館とスーパーをどうするか、というので4つに分けた。だから同じところにはいられないんですけど。コンビニから診療所から市民ホールから全部そう。だから3年くらいかかっているんですよ。ちょうど、国の補助金もそこで切れるから、名寄市の駅前本体はそれができなかった。あれはあれで凄いな。アウガなんか全部見て、コンパクトシティにするにはどうすれば良いかということ考えた。やっぱり百数十世帯の市民や商店の意見を集約するのが大変だった。僕が生きている間には建ちますかね。はっちだって、あれだけ大変だって言いながら、裏側まで筒抜けになるように土地を買えるようになったものね。ない物ねだりという感覚はないんじゃないですかね、美術館は。アンケートというか、市民の意識を拾うにはどういう手法があるんですかね。

●事務局

いつの時点というところまでの組立はできておりませんが、現在の美術館にどういう考えを持っているのか、将来、新美術館が建つとすればどういう希望があるのか、それはきちんと広くお聞きしたいなと思っておりました。ただ、今の美術館で行っている特別展示や市民の学習の場の提供、発表の場の提供というベースがあります。それについても、限られたスペースの中では思うようにできていないのではないかなというところもありますので、その辺は直に市民の皆様の声が、そういう意見に反映されてくるのかなと思っておりますし、ただ、敷地がそんなに広くないということと、周辺にも目配せしなさいというご意見をいただきましたので、そういったことも考えていくと、限られたスペースの中で有効活用していくということを第一に考えていかなければいけないと思っております。

●●委員

交番があるでしょう。あれも中に入れられると良いんじゃないかと思えますよね。

●会長

青森市を全部地下街にして、地上は草木だけで良いと、すると冬も良いし、なんて冗談で言ってますけどね。この話は何らかの形でこれからも延々と続くんでしょうね。あとは、市民の運動が起こると良いですよ。今回、市民からこういう動きがあったということは大事ですよ。

●事務局

国の交付金を使って建てようとする、どうしても期間的な制限が出てきますので、そうなると、そう先の話でもないですし、市の金だけでやろうと思えばじっくり構えてということもあるし、いざ、国のお金をもらえる機会があればそれに上手に対応していきたいとなったときに、これからというよりはいつでも対応できるように心づもりをして進めていかなければならないということもあって、美術館の運営審議会とかこの懇談会とか、色んな関係の部署で、まずはお考えをお聞きしながらどういった方向性にしていくのが良いのかということをもとめていきたいなと思ってるところです。

●●委員

盛岡の美術館は好きですね。常設しているのはさほど多くないと思うんですが、特別展が時々ありまして、ロダンをやったりとか水木しげるをやったりとか、もう少し外側が整備されてくると、良い公園にもなるのかなと思っています。あれ位の規模で。あのような状態のものが八戸市にあったら素敵だなとは思いますがね。

●●委員

建物としての美術館は、あと何年くらい、今の形で展覧会とか企画展とか、事業としてできる見込があるのかというのは分かりますか。

●事務局

今、議論している新美術館に向けて、どういう舵取りが出るかによって、新しく建てましょうという話が決めれば、その時点で事業はストップしなければいけないし、まだ先の話となれば、何年かまた運営していくことになるので、今はそれも含めた検討をしている状況です。

●事務局

以前、リノベーションという観点で考えてくれたチームの人達から、今の美術館を生かしつつ、青森銀行はそのままにして、消防の方にも広げるというようなご提案をいただいているんですけども、美術館そのものについて言えば、屋根のひさしを早急に何とかしなければならぬんですが、建物自体は、耐震性ということ言えばまだまだ使えるような診断結果でした。

●事務局

一部、補強しなければいけません。

●会長

バリアフリー化はできているんですか。

●事務局

それらを含めて耐震改修に入るとなると、どこまで延命を考えた工事をするのかということと、次の新しい構想とを突き合わせた検討が必要となります。

●●委員

長根に屋内スケート場を建設している間も、こちらの方が動くということもあり得るのですか。あちらが終らなければできないと思っていましたが。

●事務局

可能性としてはあります。

●●委員

政治のことも補助金のことも分かりませんが、公会堂・公民館は、以前、防衛庁からの補助が

出るということで、名称が違った訳ですよ。もしかすると、補助金も用途によって、こちらのスペースはこちらの補助金をもらって作りましたというようにはできないんですかね。

●●委員

美術館は美術館として使わないと。

●●委員

美術館として使うんですけど、付属の部分について、ここは別の補助金で特別にもらって作りましたという形ではできないのかなと。

●会長

防衛省の防音工事の対象にはならないでしょう。あとは競輪とか船舶とかの補助金ですか。今は、公共には補助しているのかな。

●事務局

今は、かなり広範囲に渡って国交省系の補助で整備するというのが一般的になっていますので、それを使うということが我々とする一般的なんですね。あとは、施設の特徴に応じて、どこから補助を受けるということもあり得ると思いますが、なかなか最近は施設整備に他の補助というのも聞いていないので、そこは調べてみたいと思います。補助金を有効に活用するというのは、そのとおりだと思いますので。

●会長

だから、やっぱり何から行くかということから始まると思うんですよ。地権者とか色んな要素があると思いますけど、やはり10年くらいかかるんですかね。自分の敷地の中に建てるんだったら、お金とかだけ考えれば良いけど、そうでなければ相手のあることだから、10年くらいかかるかもしれませんよね。

それでは、そろそろ終わりにしたいと思いますけど、他に何かありますか。

●●委員

美術館の要望の中で、収蔵スペースや市民が活動できるようなスペースがと書いてありますが、美術館を今まで使われていた方とか、市内の展示スペースを使って活動されていた方とかは、美術館が失われると活動場所がなくなるという切実な問題があると思うんですけども、ビジョンの中にもありますが、多文化で創造的な産業を盛り上げていくという意味では、ちょっとこれは弱いのではないかと私は思うので、外から現代美術のアーティストとか、そういう人の作品を見せることができる場所というのを、この美術館の中でするのか、市内にそういうスペースを作るのか、この美術館ありきで全ては解決しないと思いますし、何かが必ず弾き出されてしまうと思うので、それをカバーするような付帯の設備を、市内の施設をリノベーションするような形で、アトリエを作るとかギャラリーを作るとか、そういうのも合わせて整備していくべきではないかなと思いました。八戸のまちでアートとか美術に満足している市民が非常に少ないというのも、やっぱりここ何十年かの土壌が少ないというのもあると思いますので、新しい開発をしていくという意味では、新しいアーティストとか新

しい人材をもっと積極的に入れなくては、どんどん遅れていくのではないかという点において、今の世代で同じ思いを持っている人達は多いのではないかと思います。

●会長

ありがとうございます。他に何かありますか。

●●委員

新しい美術館の構想に、市民の意見を取り入れすぎると、中々、進まないということもあるし、尖ったものにならないし、多文化のビジョンの意見にもあったんですが、その兼ね合いは難しいのかもしれないけれども、携わった行政の方々が勉強しなければならないのかもしれないですね。鋭く「こっちが良い」と強く引っ張っていくものがないと、みんなの意見を聞いて出来上がったものって、何も面白くないという語弊はありますが、なりなりのものはできるけど、あまり面白いものにならない。そうなる、これから作るのであれば、反対する人もいるかもしれないけれど、とても良いと思う人がいるようなものにしていかないと、折角こしらえるのに勿体ないなという気がします。

●会長

あとはタイミングだね。寄附を集められるような大義名分。やはり、多様な補助金を活用するのに、期限も決まっているでしょうし、どうしてやっていくか。青森市は全部それで失敗している訳ですから、駅舎は完璧にできない状態で、でもJRはバリアフリーはやると、やったらそこはできちゃう訳だから駅舎はできないと。タイミングというのは重要ですよ。気分が乗ったときにやって、後から反省するというのも一つの手かなと。作った人達、関わった人達の魂ってありますからね。

それでは、美術館については、今日の意見交換が参考になればと思います。

本日の案件につきまして、パブリックコメントの方は、早速このような形で速やかに反映させていただいて、ビジョンの方は担当の方で修正していただいて送付していただくようお願いします。

その他、委員の皆様から、最近の活動状況など情報提供するような材料がありましたらお願いします。

●●委員

現在の美術館のことで、文化協会には何度も言っているんですけど、エレベーターホールの前には絶対に物を置かないようにしてほしいです。先日も置いてありました。美術館は夢のある世界なので、そういう所に台車なんかを置かないでください。悲しくなります。

●会長

はい、分かりました。他にいかがでしょうか。

それでは、少し時間が過ぎましたが、以上で、本日の会議を終らせていただきます。ありがとうございました。